

文理融合学部／文系・理系の境界線について考えてみる

あけましておめでとうございます。良い年にしたいですね。

さて、本当は年末に発行したかったのですが、終わらない仕事(3年生ならわかってくれるでしょう)のため、後ろ倒しになってしまいました。今回も、大学についての考察です。1・2年生はもちろん、受験生も最終的な判断に役立つかもしれません。

高校では文理選択は大きな選択にはなりますが、世の中には文系・理系と割り切れない事象はたくさんあります。そのため、近年、大学には文理融合型と呼べるような学部が続々とできています。また、既存の学部・学科であっても、単純に文系・理系と割り切って考えない方がいい分野もあつたりします。今回はこれらについて考えてみます。またしても長いので、面倒な人は最後のまとめだけ読んでください。

文理融合学部について

中央教育審議会でも「文理横断・文理融合教育の推進」は1つのトピックとして重視されており、国公立大学でも近年次々と文理融合型の学部が新設されています。文理融合といっても、いろいろあるので、ここでは独自に3つに分類してみます。

①情報科学系

②融合系(←勝手に言ってます) 大学内の学部が合体したり、異なる学部の教員が集まって、新たな学部にも再編されたもの

③教育学部再編系 教育学部が改編されてできたもの

まず、①情報科学系ですが、全体的にみると、やはりデータ分析を主とした、コンピュータ関連がメインです。ですので、多くの学部は、工学・数理・物理系からの流れがあります。また、滋賀大データサイエンスのように、経済・経営系から数理分析に特化したところもあります。他方、「情報」についての研究には「言語学」「心理学」「美学」「メディア」「コミュニケーション」といった、人文社会系からのアプローチも含まれます。そこで、名古屋大学や静岡大学の情報学部には人文社会系のコースも用意されています。例えば静岡大学情報学部のHPで情報社会学科の教員一覧をみると、ちょっとした私立大学の文学部社会学科じゃないかと思えるぐらいの先生が揃っています。興味深いのは、文系最難関大学の一つである一橋大学にできたソーシャル・データサイエンス学部です。そもそも一橋大学は他学部でも2次に数学が必須なわけですが、この学部は完全に理系に振り切っています。前期の総合問題(理系必見!)といい、後期の数学の配点比率といい、数学が得意な受験生を求めていることがわかります。そこで、模試の段階では、後期日程のない、東大理I、理II、東工大の志望者が、後期日程に一橋大を選ぶ、という現象が起きているようです。その結果、各社の模試において、一橋大のソーシャル・データサイエンス学部は、隠れ後期日程理系トップの学部になっているのだそうです。一橋についてはちょっと極端ですが、情報科学系は大学によって文系・理系のコースに分かれていて、特に文系コースは案外面白いことが学べるかもしれない、ということは知っておくとよいでしょう。

続いて②融合系です。静岡大学のグローバル共創科学部はそのような感じですね。広島大学の総合科学部、金沢大学の融合学域、新潟大学の創生学部、和歌山大学の社会インフォマティクス学環、大阪公立大学の現代システム科学域など、まあ、はっきり言って、学部名を聞いただけでは何を学ぶのかさっぱりわからないところが多いです。個人的な見解では、学部1つで小さな大学1つのようなごった煮感が魅力だと思います。やはりここのまは教授一覧を見てみるとよいでしょう。例えば大阪公立大学の現代システム科学域などは面白いです。一説によると、大阪府立大学時代に大阪府から文系学部は不要だから解体しなさい、と言われ、それをうまく切り抜けるために学部改編をして作った学域なのだそうです。その結果、文系の学びを軸にしながら、理系の学びが混ざりこんでいるという不思議な組織になっています。

ほかの大学も、バランスの違いはありますが、文系・理系の先生がまんべんなくいること、文系・理系どちらの入試方式でも受験できるということが多いです。理系の生徒が受験科目を変えることを文転と呼びますが、こういう学部だと、受験科目は理系のまま受験をして、学問は文系を学ぶ、という本質的な文転が

大学	学部
群馬	情報
一橋	ソーシャル・データサイエンス学部
横浜国立	都市科学
横浜国立	データサイエンス
新潟	創生
金沢	融合
岐阜	地域科学
名古屋	情報
静岡	情報
静岡	グローバル共創科学部
滋賀	データサイエンス
京都	総合人間
福知山公立	情報
大阪公立	現代システム科学
神戸	国際人間科学
和歌山	インフォマティクス学環
兵庫県立	環境人間
兵庫県立	社会情報科学
広島	総合科学
広島	情報科学
徳島	生物資源産業
愛媛	社会共創
九州	共創
長崎	環境科学
宮崎	地域資源創成

できるのがいいですね。また、文系の受験科目のまま、学部に入って理系的な学問を学ぶという、**理転**も可能です。例えば**環境問題**などを大学で学ぼうとすると、文系の視点から入っても、結局中身は理系なので、こういう学部は重要だと思います。

最後の③**教育学部再編**ですが、これはかつて「ゼロ免」と呼ばれたコースのイメージです。最近あまり見なくなったように思いますが、「教員免許をとらなくても卒業できる教育学部のコース」のイメージです。社会教育や生涯教育、日本語教育、教育行政など教育周辺の分野が専門で、やり方によっては教員免許もとれる、といったところ。余談ですが、教育学部は「教育学」を学ぶことがメインなので、初等教育課程などでは、文理の受験科目にかかわらずコースが選べる人が多いです。そのため、文系から理科や数学の先生を目指したり、理系から社会の先生を目指すことができたりする、というのも面白いですね。

文系だけと理系っぽい、理系だけと文系っぽい分野

文系・理系と分けてしまうとちょっと本質を見逃しそうな学問もあります。例えば文系の**経済学・経営学・心理学**（心理学は医学の隣接領域です）は、どう考えても数学的素養が必要なことはわかると思います。もちろん研究になれば計算はコンピュータがやってくれますが、少なくとも統計や関数の基本的な知識は不可欠です。ですので、経済学部や心理学科で受験科目（共通テストも含む）に数学がないのは、受験科目に英語がない外国語学部のようなものだ、と思った方がいいと思います。もし、そういう大学があるならば（実際、ありますが）、考えられることは2つですね。入学後にみっちり数学を叩き込んでくれるという期待か、いい加減に経済学・経営学・心理学を学ばせられるかも、という不安です。

また、意外なところでは、**法学**も文系の中の理系と言われることがあります。もちろん物理や化学の知識が必要というわけではないのですが、例えば裁判のプロセスは、さまざまな資料をもとに、厳密な検証を行い、結論（人の生死にかかわる判決）を導き出します。感情や感性よりも、論理的な思考が求められるという点で、法学の中身は理系と言ってもよいでしょう。

一方、理系についても考えてみましょう、確かに物理・化学といった、基礎研究についてはまさに理系そのものですが、**工学系**の分野、特に**デザイン系**の分野は、文化的要素を無視できません。自動車を例に挙げてみると、スピードや燃費を追求するのは理系的ですが、「かっこいい」「美しい」車とは何か、を考えるのは文系的要素です。**建築**なども同様ですね。建築という分野は耐震構造など力学的な要素が必須である一方、芸術的側面も不可欠です。著名な建築家はだいたいアーティストとしてみられていますね。まあ、建物の見た目の美しさを重視した建物の使い勝手については・・・ゴホゴホ。ちなみに静岡県内の国公立大学で**建築士の受験資格**を得られるのは**静岡文化芸術大学デザイン学部**だけです。ここは数学さえやっておけば、文系・理系どちらでも受験できます。他方、静岡大学には建築学科がないのは不思議ですね。

その他、**農学系**も、品種改良などの基礎研究は理学部に近いですが、**農業経済学**など、文系学問との接点は多いです。また、前述のように、**環境系の学**びも、基礎研究と人間の生活のバランスを考える学問ですね。そして、何より**医療系（医学・看護・薬剤師・放射線技師・理学療法・作業療法・その他福祉系など）**は直接人と関わる領域ですので、受験科目とは関係なく、否応なしに、倫理・宗教などについての基本的な素養は必要になってきます。あと、どの学問も学問史は学びますね。

まとめ

以上をふまえて、受験生としてどう考えていくかです。

まず、理想的な話として、やはり文理に関係なく、自分の学びたい学問があれば、**学部名に惑わされず**に、ちょっと調べてみる（可能であれば、**教員一覧・卒業論文一覧**までチェック）のをおすすめします。特に、受験は理系科目を使いたいが、大学では文系の学問を勉強したいという人は、視野を広げて調べてみる価値はあります。

また、実利的に考えると、ある大学の希望学部がもう一歩厳しそうな場合、こういった文理融合型の学部学科を視野に入れてみるのはありだと思います。例えば**静岡大学**の場合、**文系**だと**人文社会**よりも、**グローバル共創**や**情報学部**の方が合格しやすいそうです。歴史系を学びたいのであれば、人文社会一択ですが、社会学や言語学、心理学などは融合系の学部でも学べそうです。学部の知名度が低いだけなので、教授や講座をしっかりと調べて、興味のあることが学べそうであれば、全然問題ないと思います。一方、理系の情報系学部は人気が高く、工学部や理学部よりも難易度が高いことが多いようです。

さらに、以下の項目もチェックポイントになります。

①取得したい資格（特に教員免許）がとることができるか。取得したいかどうかは自分の判断です。

②教員の異動もありうるので、継続的に学びたいことが学べそうか。特に講師の先生だと、出世していなくなるかも。

③就職先。新学部だと卒業生がいなくて、実績はないですね。とはいえ、これらの大学で就職に困ることはないと思います。実際には学生のうちから起業している人もいたりします。大学の広報費が少なく、受験生になかなか伝わらないですね。

※もちろん、以上の内容はあくまでも参考にしてください。これらを鵜呑みにせず、自分できちんと調べることが一番大事です。